

平成20年度 国立赤城青少年交流の家企画事業  
「ボランティアスタートアップセミナーinあかぎ」  
～ボランティア活動を通して、新しい自分を発見してみませんか～

< 実 施 報 告 書 >

国立赤城青少年交流の家

期 日 ・ 場 所 : 平成20年5月24日(土)～平成20年5月25日(日)  
独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立赤城青少年交流の家  
〒371-0101 群馬県勢多郡富士見村大字赤城山27

事 業 名 : ボランティアスタートアップセミナーinあかぎ  
～ボランティア活動を通して、新しい自分を発見してみませんか～

趣 旨 : ボランティア活動に興味・関心のある社会人・学生・高校生等を対象に、ボランティア活動に必要な知識・技術の習得の場を提供することにより、広く社会の様々な場面で自発的な活動ができるボランティアを養成する。

事 業 の 特 色 : ボランティア活動に必要な知識・技術の習得とともに、ワークショップを多く取り入れることにより、ボランティア活動に必要な能力を育成する。また、立案・企画段階より法人登録ボランティアの意見を反映させ、実習2コマ・講義1コマ分は、法人登録ボランティアが講師・ファシリテーターとなる。今年度は野外体験活動もプログラムに加える。

募 集 人 員 : 社会人・学生・高校生等でボランティア活動に興味・関心のある者 40名

参 加 者 : 52名

参 加 者 地 域 : 群馬県 : 51名、埼玉県 : 1名

企画のポイント : 職員・法人登録ボランティア・講師・講師助手の協働により企画・立案・運営にあたった。職員が2コマ、法人登録ボランティアが3コマ、講師と講師助手が2コマ、それぞれ講義・実習を担当したが、内容の共通理解と相互の関連性を十分踏まえながら展開することができた。これにより、ボランティア活動初心者参加者にとっては、変化と説得力のあるプログラムとなった。また、法人登録ボランティアにとっては自らのボランティアスキルのアップを図ることができたと考える。講義についてはワークショップ形式で行う時間を多めにとり、参加者同士あるいは参加者と講師・講師助手とのコミュニケーションを促進した。屋内活動と野外体験活動の時間配分(バランス)と順序にも配慮した。

広報のポイント : 開催要項及びちらしを、関東地区の県教育委員会・社会教育施設・青少年教育団体・各種学校・高等学校・大学・報道機関等に送付した。数県の地方紙・タウン誌には広報記事が掲載され、地元FM局のCMでも広報アナウンスを入れた。本所Web上での広報および4月の本所利用団体への直接PRも積極的に行った。

プログラム展開 : < 5月24日 (土) 1日目 >

9:30 受付  
9:45 開講式  
10:30 実習1 『心と体をやわらかく!!』  
～アイスブレイク～  
11:30 実習2 『やはりお昼はこれだよね』  
～野外体験活動(野外炊事)～  
15:00 講義1 『私が変わる 社会も変わる』  
～青少年教育の理解～  
16:30 講義2 『青少年教育施設って なに?』  
～青少年教育施設の現状と理解～  
講師: 矢端義直先生(東京福祉大学・大学院社会福祉学部教授)  
18:00 夕食・入浴  
19:30 講義3 『今 なぜ ボランティア?』  
～ボランティア活動の意義～  
講師: 矢端義直先生(東京福祉大学・大学院社会福祉学部教授)  
21:15 情報交換会  
22:30 就寝

< 5月25日(日) 2日目 >

6:30 起床  
7:10 朝のつどい・朝食  
9:00 実習3 『もしもの時、あなたならどうする』  
～救急救命法～  
講師: 前橋市消防本部北消防署白川分署  
12:00 昼食  
13:00 講義4 『交流の家のボランティア紹介』  
～施設におけるボランティア活動の理解～  
『ふりかえり・まとめ』  
14:30  
15:30 閉講式  
16:00 退所

成 果 : 今年度は野外体験活動(アイスブレイク・野外炊事)をプログラムに入れたことにより、参加者同士のコミュニケーションが活発化し、仲間づくりが円滑に行われた。3コマを法人登録ボランティアが講師やファシリテーターを務めたことにより、参加者はボランティア活動を身近なものとして捉えることができ、ボランティア活動への意欲を高めることができた。メイン講師の講義では参加者は自らのボランティア観を見つめ直し、自分自身への理解を深めることができたと考える。

今後の課題 : 参加者アンケートから、本事業は概ね好評であったと捉えることができるが、今後、参加者とのつながりをどのようにしていくのか検討中である。法人登録ボランティアのスキルアップを計画的に図っていくことと、今回の参加者のステップアップをどうするのか課題である。社会人の参加者が今回少なかったが、広報についても要検討である。



アイスブレイクをする参加者たち



ボランティア活動の意義について話し合う参加者たち



救急救命講習で心臓マッサージの手法を学ぶ参加者たち